



米朝会談中止

「現時点では不適切」

トランプ氏最大限の圧力継続

【ワシントン＝黒瀬悦成】トランプ米大統領は24日、6月12日にシンガポールで予定されていた米朝首脳会談を中止すると表明した。トランプ氏から北朝鮮の金正恩朝鮮労働党委員長に対する書簡をホワイトハウスが公開した。米朝関係は対話解決への機運から一転し、緊張状態に再突入する恐れが高まった。

トランプ氏は書簡で、北朝鮮が最近、米国に対して「猛烈な怒りと露骨な敵意を示してきた」と指摘した上で、「現時点では会談を行うのは不適切だと感じた」としている。

トランプ氏はまた、「歴史上、悲しい瞬間だ」とし、「北朝鮮は繁栄の機会を失った」などと批判しつつ、「いつの日か会えることを楽しみにしている」と述べ、将来の会談に含みを残した。

トランプ氏は続いて、ホワイトハウスで記者団を前に声明を読み上げ、マティス国防長官や同盟諸国と話し合ったとした上で、北朝鮮が「ばかげた行動」をするならば、「脅威に対処する用意はこれまで以上にできている」と軍事的選択肢をとる可能性に言及し、北朝鮮を強く牽制した。

トランプ氏はまた、強力な制裁で北朝鮮に「最大限の圧力」をかけ続けるとした上で「米国民の安全に関して妥協することは決してない」と強調し、北朝鮮にあくまで核放棄を要求していく姿勢を打ち出した。

一方、ポンペオ国務長官は24日、上院外交委員会会で証言し、「数日以内」に今後の対処方針を示すとの見通しを明らかにした。

韓国の文在寅大統領は25日未明、米朝首脳会談の中止を受け「当惑しており、非常に遺憾だ」と表明した。



24日、米ワシントンのホワイトハウスで演説するトランプ大統領 (AP)